



ありがとうございました

校長 小野寺 利 江

温かな日差しが周りを春色に染め、吹く風にも確かな春の香りが感じられます。

春の訪れとともに、学校では別れの季節を迎え、3月14日に令和6年度卒業証書授与式が行われました。小学部2名、中学部3名、高等部8名の皆さん、保護者の皆様、御卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。卒業生一人一人に卒業証書を手渡す授与では、共に過ごした学校生活の場面を思い出し、心から「おめでとう」という言葉とともに、「ありがとう」という感謝の気持ちを込めて手渡しました。在校生、御来賓、保護者、教職員が一体となり、まるで卒業生を包み込むようなとても温かな雰囲気の中で行われた卒業式でした。

高等部の卒業生の皆さんにとっては通い慣れた学び舎を巣立つことは、卒業する「喜び」とともに「別れ」という寂しさや悲しみ、辛さも経験します。しかし、これら全ては人として成長するための「糧」となることでしょう。そして、皆さん一人一人には新たなステージでの「出会い」が待っています。「出会い」には「不安」がくっついてくることがありますが、ときめき、喜び、楽しさも必ずあります。「出会い」によって、新たな縁ができ、新たな経験を重ねることで人生は広がっていきます。それぞれが自分の良さやこの学校で友達や先生とともに学んだことを生かし、未来に向かって羽ばたき輝いてほしいと願っています。

小・中学部の卒業生の皆さん、そして在校生の皆さんにはこれまで培った力を基に、新たなステージで新たな学習に挑戦し、さらに大きく成長してほしいと願っています。

結びになりますが、保護者並びに関係機関の皆様、地域の皆様、この一年間本校の教育活動の推進に對しまして、学校の力強い応援団として深い御理解と温かな御支援を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。また、令和7年度も教職員が一丸となって児童生徒一人一人にしっかりと目を向け、全力で取り組みますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

卒業生へメッセージ 担任より

小学部



小学部で過ごした6年間はどうか？あっという間に過ぎたのではないのでしょうか。色々な先生やお友達と日々を過ごす中で、楽しかったことや頑張ったことなど、たくさんの思い出ができたと思います。春からは中学生です。今までとはまた違った生活が始まります。時にはくじけそうな時があるかもしれませんが、それでも小学部で身につけたことを大切に、様々なことに全力でチャレンジしてほしいと思います。卒業おめでとうございます。【文責：今野】



中学部

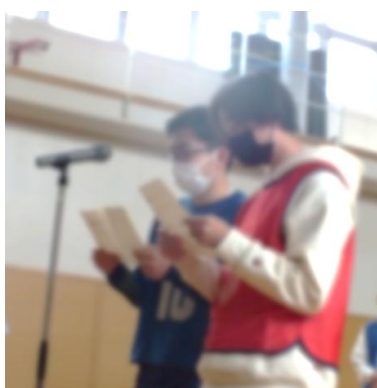


中学部卒業生の皆さん、保護者の皆さん卒業おめでとうございます。卒業生のみなさんは、この3年間でたくさんの経験をしてきましたね。毎日の頑張りをそばで見られて、大変光栄でした。そして、毎日コツコツと積み重ねることがこんなに素晴らしいということに改めて経験させてもらいました。幸せな1年間をありがとうございました。卒業生の皆さん、4月からはいよいよ高校生です。



前を見て！胸を張って！！自分らしく！！更に成長してくれることを祈っています。【文責：渡辺】

高等部



3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。みなさんとは1年間の付き合いでしたが、4月に会った時と今とでは見違えるほど成長を感じています。1日1日がドラマであり、何度も夢に出てきました。楽しい思い出をありがとう。12年間の学校生活も終わり、これから社会人として社会へ出て行きます。学校生活より自由になる時間も多くなりますが、一つのことに對しても責任をもたなければなりません。一つの言葉、一つの行動に責任をもってほしいと思います。保護者の皆様、関係機関の皆様、御卒業おめでとうございます。毎日の送迎などお疲れ様でした。また、体育祭や販売会など行事などに参観いただき、ありがとうございました。【文責：金森】

静内高校との交流



冬休み明けの1月、各学部でこの時期恒例となっている静内高校との交流学习がありました。交流のはじめは、静内高校生による「書道パフォーマンス」。曲に乗せながら大きな筆で書き上げていく姿に、児童生徒も釘付け。圧巻のパフォーマンスでした。その後は、静高生のみなさんに教えてもらいなが



ら、今年の目標や好きな言葉など、自分の「書きたい言葉」に筆を走らせました。通常の半紙だけではなく、大型の紙にも挑戦し、それぞれ自分の作品を仕上げました。短い時間でしたが、とても楽しく活動し、有意義な交流となりました。

【文責：川浪】



風のたより ~コーディネーター見聞録~

今年度、パートナーティーチャー事業で相談があった子どもの延べ人数は343人。昨年度より40人ほど少なくなっています。数字だけ見ると「困っている子どもたちが減った」と言えるのかもしれませんが。しかし、相談に上がってこない子どもたちや「困っている」と伝えることに勇気が必要な子どもたちを含めると、もっとたくさん子どもたちが困り感を持っているのかもしれません。

これからも子どもたちや子どもたちを支えている周囲のみなさんのお力に少しでもなれるよう、頑張っていきたいと思っています。

【文責：土井】

